国際交流員ザブリーナ・リンのコラム

ドイツとの姉妹都市交流 姉妹都市訪問団受入事業の報告

6日間のホームステイ

3月27日から4月1日にかけて、姉妹都市のドイツ・ディーツヘルツタールから中学生訪問団（中学生15名・引率者4名）が来日しました。6日間下野市でホームステイをして、日本での日常生活を過ごしながら様々なプログラムを体験しました。具体的には南河内第二中学校、しもつけ風土記の丘資料館などの市内見学、書道・茶道といった日本の伝統文化体験、浅草・横浜への遠足の他、日独交流150周年記念の植樹祭や訪問団の歓迎パーティーといったイベントへの参加もあり、とても充実した滞在となりました。日本にいる間、日本や下野市の良さを感じ、下野市への関心を深めていただけたら幸いですよね。6日間、ディーツヘルツタールと下野市の中学生たちの様子を見て、間違いなく日本とドイツ、下野市とディーツヘルツタールの交流は大成功だったと思います！もちろん不安や問題も少しありましたが、訪問団の皆さんはとても楽しく、充実した時間を過ごせたみたいです。新しい友達ができたり、前からの友達との関係が深くなったり、お互いの文化への理解を深めることができました。

グリムの館で歓迎パーティー

「ありがとう」のクラクション

初めて日本に来た中学生や引率者の反応を見るのが私にとっては結構面白かったです。何回も日本に来て慣れてしまうと、外国人でもだんだん細かいところが見えなくなってしまいます。初めて日本に来たドイツ人をみると「なるほどね」という気持ちになることがたまにありました。日本の皆さんにとっても面白いと思います。外国人が気づく部分は日本人にとっては当たり前のことなので、勉強になると思います。

浅草浅草寺を見学

最初に浅草のレストランで食事をした時に、ドイツ人は大ショックを受けました。理由は日本の和式トイレでした。女性がキャッキャしながら信じられないという顔をして、我慢しながら一つしかない洋式トイレの前に並びました。食事にも敏感な子供がいて、味噌汁に入っている昆布もイヤでした。ドイツは日本と比べて海の幸がとても少なく、昆布やワカメなどが食べられるものだと意識する人は少ないと思います。同じように、ドイツ人にとって、レンコンやタケノコも初めてでした。「本当に食べられますか？」と聞かれました。バスで移動していた時、道路にゴミがなく、街路樹が綺麗に切られているなどのことで感動していました。特に、ドイツよりゴミ箱がとても少ないのに、町に捨てたゴミがないのは素晴らしいと言われました。東京の中で、バスが駐車するためにバックをした時、周りの車が当たり前に待ってくれるのも日本人の良い所です。ドイツだと、少しでも時間がかかると周りの皆さんは大体すぐにクラクションを鳴らします。やはり、ドイツ人は日本人より短気なんでしょう。前の車が青信号になってもすぐに移動しないとき、私もすぐにクラクションを鳴らしたくなるけど、皆さんは我慢しますので、私もそういう気持ちになりました。逆に、日本人が「入れてくれてありがとう」の気持ちとしてクラクションを鳴らすのは、最初は大ショックでし

南河内二中での剣道体験